

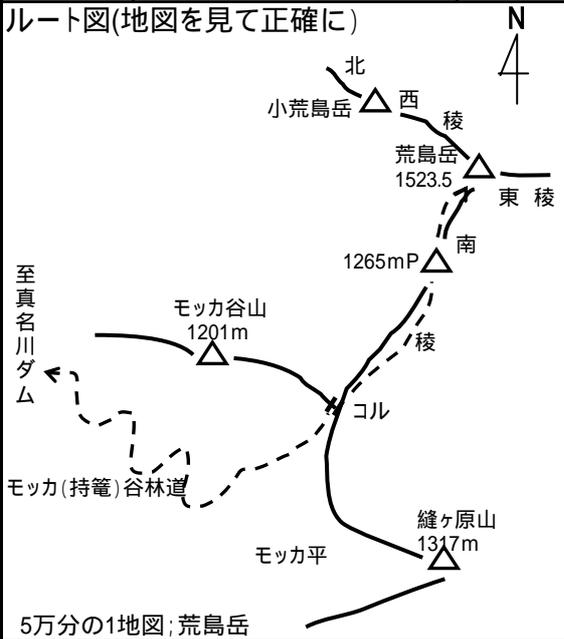
4月度 個人山行報告書

報告者: 渡辺勝利

報告日: 0504.23

山域	奥越	山行日	05年04月15日(金)~	参加	CL; 藤田健治
山名	荒島岳、銀杏峰		05年04月17日(日)	メンバー	SL; 塚本英吾
山行目的	奥越の春山に登る		(2泊3日)		岡田晋、良枝、渡辺勝利

配布先
 集会: 枚
 山行リーダ;
 原紙; 集会
 担当者



4/15	4/16(快晴)	4/17(快晴)
19:30 刈谷発 豊田南ICから 東海環状道路、 中部縦貫道を 経由して入山	04:30 起床 05:20 車にて出発 05:30 除雪限界の林 道途中に車テホ 06:05 登山開始 モッカ谷林道	04:20 起床 05:20 車にて出発 05:40 憩いの森P (宝慶寺横にあり) 06:05 登山開始 名松新道
23:00 真名川ダム 23:20 就寝 ダムサイトにて 幕営	08:40 南稜のコル 09:00 11:00 1265mピーク 12:05 荒島岳頂上 12:55 1523.5m	08:30 前山 09:30 銀杏峰頂上 10:35 1441m 11:00 前山
17:30 車テホ地 21:30 駐車場にて 幕営	15:00 南稜のコル 15:30	12:10 憩いの森P 宝慶寺参拝 17:00 刈谷着

< 山行記録 >

深田久弥氏の「日本百名山」に名前を連ねる奥越の名峰「荒島岳」、ひょうきんな名前の「銀杏峰」(げなんぼ)は、大野盆地の東西にまるでよそ者の侵入を見張る門番のように聳え立ち、しかしその姿は優美な格調の高い山容を誇っている。今回はこの二山を天候にも恵まれ、ラッシュにて登頂を果たすことができた。山麓の新緑、尾根の残雪、天候は雲一つない紺碧の空、頂上からの360度の大展望とくればその他に何を望むことができるか。これぞまさに「春山万歳」の山行であった。

< 荒島岳 4/16 >

頂上から顕著な稜が3方向に伸びており、その中の最も長大な南稜(福井山岳会編『荒島の冬』による)を真名川ダムより登ることにし、前夜発で刈谷を出発。夜半にダムサイトに到着し幕営。翌朝は除雪された林道を車で出発。すぐに雪で埋まった林道となり車をテホ。体調の悪いYさんをキーパーに残し、雪の林道を歩き始める。雪の状態はよく、靴がちょっと埋まる程度で歩き易いがモッカ平の裾を巻く曲がりくねった林道のその長いこと、長いこと…。大汗をかき、いやになる頃漸くコルに着く。ここまで来ると視界が大きく開け、荒島岳までの南稜ルートもはっきりと見通すことができるようになる。ここからは傾斜も少なく雪に覆われてどこを歩いてもいいくらい広々とした明るく開放感のある稜線散歩となる。ところどころ雪庇の残っている箇所もあるが全く問題なく、だらだらとした長い登りが続き、最後は熊笹の刈り込み途中の夏道通して頂上に立つ。頂上には朽ち果てた祠があるだけだが広くすっきりしており、気持ちのよい場所で360度の大展望を満喫することができた。寝そべて十分に陽光を浴びた後登りのルートを下山する。登りで苦労した頂上直下の藪漕ぎも下りは早い。雪の斜面もゆっくりとマイペースでコルに着く。ここからモッカ谷山へ空身で往復するO君を待った後、今度は距離と時間の予備知識のある林道を、余裕を持って車のテホ地に帰ってきた。(大野水芭蕉の湯に入り、O君ご推奨の勝山付近の屋根付き駐車場で幕営)

< 銀杏峰 4/17 >

宝慶寺横の憩いの森に車を留め「名松新道」に登る。はしごを上るといきなり杉の植林帯の急登となり、樹林帯を抜けると雪の急な尾根の登り(痩せ尾根ではなくどこを登ってもよい)が続く。前山からは更に急な斜面を登りきると頂上台地となり、ほんの一息で頂上に到着。天候も快晴で雲ひとつない青空が広がり、北に大野盆地、東に荒島岳、南には奥美濃の山々が一望でき、昨日に続いて最高の展望を満喫できた。ルート途中に咲くイリカミヤショウジョウバカマ、コフシの花が山歩きの疲れを癒してくれた。

< リーダ所見 >

昨秋に続き大野盆地に入り荒島岳・銀杏峰登頂を果し、帰りに名刹宝慶寺(ほうぎょうじ)にもより心身のリフレッシュをすることができた。越前の春はまだ遅く山桜の花の蕾はまだ硬かった。月末GWには白山に入るが当分は春の雪山を堪能できそうだ。

< フリースペース >

山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

< 荒島岳頂上にて >

藤田 05/04/23